

## 平成23年度 第2回 千葉県安全性向上プロジェクト委員会 議事要旨

■ 開催日：平成24年3月16日（金） 13：30～15：00

■ 場所：千葉市内 千葉県教育会館 203会議室

■ 出席者：

千葉工業大学 工学部 教授	赤羽 弘和〈委員長〉
(社)千葉県トラック協会 交付金事業部長	塙 泰弘(代理)
(社)千葉県バス協会 専務理事	花崎 幸一
(財)千葉県交通安全協会連合会 事業管理課長	松野 勉
(株)千葉日報社 業務局長	鎗田 光明
千葉県警察本部 交通部交通総務課長	藤井 等(代理)
千葉県警察本部 交通部交通規制課長	内田 直之(代理)
千葉県県土整備部道路環境課長	佐野 成寿(代理)
千葉県環境生活部生活・交通安全課長	内山 真義(代理)
千葉市建設局土木部長	佐藤 寿之(代理)
首都国道事務所 所長	藤田 明(代理)
千葉国道事務所 所長	遠藤 和重

■ 議事

### (1) 前回委員会での審議対応

昨年12月に開催した第1回委員会における質疑、要望を踏まえた対応について報告した。

○事故ゼロプランの目標設定について

- ・ 本プロジェクトによって、千葉県内の事故をどのくらい削減させるかを提示することは難しいが、対策実施した箇所については3割以上を削減するという考え方でよいか。  
→そのとおりである。

### (2) 今後の事故ゼロプランの取組みについて

事故危険区間リストの更新の考え方、更新した事故危険区間及びH23代表区間について審議した。

○事故危険区間の更新について

- ・ 車両相互の死亡事故が大きく減少する中、歩行者、自転車、高齢者等の死亡事故はなかなか減少しない。そういう意味でも、交通弱者の選定基準の見直しにより、選定箇所を増やすことは有効だと考える。

○H23代表区間について

- ・ 昨年度選定した代表区間の中で対策立案・調整中の箇所は、用地買収等により見通しが立たない箇所も含まれているのか。  
→課題が大きく、かつ高い効果が期待される箇所でスピーディに対策できる、概ね3年から5年以内で完結する箇所を選定している。  
その他、代表区間以外にも事故危険区間リスト箇所も随時対策を実施している。

### (3) 既往取組みのフォローアップの報告

既往対策箇所について、対策効果があった箇所、なかった箇所事例及び、千葉国道事務所管内の対策工種別の効果検証結果を報告した。また、効果検証に挙動調査を実施することを提案した。

#### ○効果がなかった箇所について

- ・ 左折時の自転車巻き込み事故の増加について、左折車にとって自転車の挙動を認知させることが重要であり、交差点隅切り部の植栽等で自転車の走行挙動を左折車から確認しやすいよう物理的に規制することも有効と考えられる。
- ・ 右折レーンで追突が増加したことにに関して、コンパクト化により交差点内で滞留できる車両が少なくなったことが影響していることが、要因のひとつとして想定される。
- ・ 交差点コンパクト化対策は、交差点コンパクト化に併せて停止線位置や交差点内の右折導流帯の延長等が変化するが、同時に黄時間や全赤時間等の信号制御も見直すことで安全性向上に期待できる。

#### ○対策工種別の効果検証について

- ・ 二輪車の左折巻き込み事故の対策について、片側にドットライン設置することにより車両をキープレフトさせる事例を紹介しているが、最近、話題となっている自転車の走行空間について、明確な指針がない現状では、設置に留意したほうがよいと思う。
- ・ 新しい対策は、対策により着目した事故以外の事故が発生する副作用が生じるおそれがある。一方で、どこかが実施して経験を蓄積して共有することが重要である。本委員会の枠組みの中で事後評価も実施しているので、副作用に留意しつつ、試行してみることが重要である。

#### ○挙動調査による効果検証について

- ・ 対策効果を事故件数で検証するには、対策前後で3年程度の事故データの蓄積が必要であり、時間がかかる上、効果がなかった場合の対応も遅れてしまう。
- ・ そのため、提案している挙動調査によって、対策で目的とした挙動が実現しているかを確認することは有効である。

### (4) 今後の予定

次回委員会は、秋頃の開催を予定している。

以上